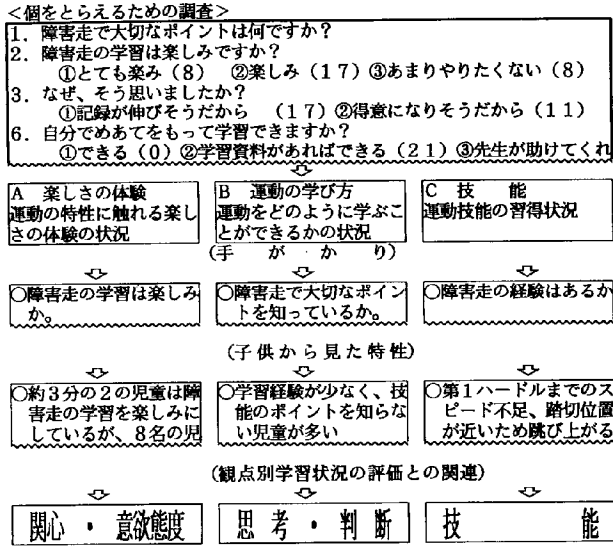


資料1 観点別授業設計 体育科サークル

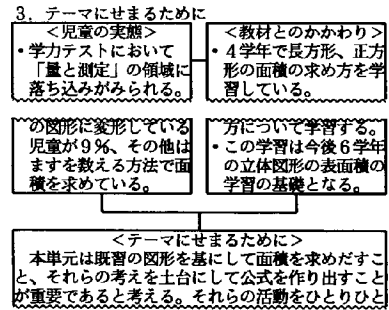


(2) 研究の実際
観点別項目からの授業の設計
児童の実態を観点別に分析することにより、個のとらえ方の視点を明確にして授業を設計することとした。

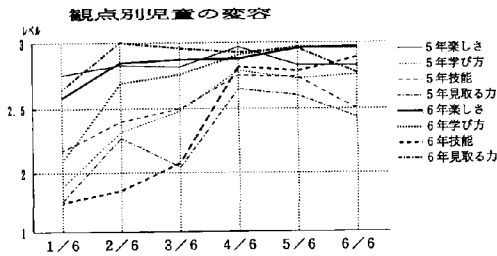
(3) 考察
一人一人がどんな願いをもち、

② 単元構想の位置付け
主題にせまるための仮説とその対策を明確にし、単元を通してどのような力をつけさせていくのか、指導案の中に単元構想図を位置付けることとした。

資料2 単元構想図 算数科サークル



資料3 観点別授業分析 体育科サークル



(2) 観察法に頼ることが多かった。
研究の実際
児童がどのように変容したかをとらえるために事前・事後で

スト、観察法に加え、観点別自己評価を単元を通して実施した。また、授業分析も観点別に実施した。

① 楽しさの体験
5、6年生とも初めての体育における交流学习であった。単元の初めはお互いや緊張気味に学習を進めていたが、学習が進むにつれてスムーズ

② 運動の学び方
運動の学び方については単元が進むにつれて向上していった項目であるが、単元初めは5、6年生ともかなり低い数値を示した。

対策1 運動のできばえを見とる力を育てる工夫
○TTを通し、より多くの子を見取り、適切な支援活動を行うことができた。
○学習資料をもとに技のポイントをアドバイスできる児童がふえた。
●TTの機能を生かした指導方法、ねらいに応

対策2 教え合い学習を深めるための工夫

(1) 3
教師は単元を通してどのような手立てを用いて児童の願いを実現させていくのか、どのような力を身につけさせていきたいかという構想がより明確になった。

検証方法・授業分析の改善
現状の問題点
検証方法・授業分析については、単元を通して児童の変容を客観的にとらえた具体的な資料によって検証される必要があるが、検証方法も各教科サークルごと様々であり、客観性のない

資料4 自己評価カード 国語科サークル

